

# 水辺の詩

～川のカ・木のカと共に暮らす～

徒然草(上)

第55段 家の作りやいは、夏をむねとすべし。  
家の作りやいは、夏をむねとすべし。冬は、いかなる所に  
も住まる。暑き比ねなき住居は、堪へ難き事なり。  
深き水は、深しければ、残くて流れたる。道に流し。

## 1 新しく古い住まい

高気密、高断熱あるいは24時間換気など、現代住宅の性能は数年前飛躍的に高度化してきた。一方で今年度の台風災害のように、電気や供給されなくなるなど高性能ゆえに生活が維持できなくなる危険性をあらわしている。  
私たちの提案は田舎好によって執筆された『徒然草』にあるように、川の流れを利用して夏を涼しく快適に過ごすといった、古代人の知恵を利用して家づくりをしてはどうだろうかというアイデアである。  
京都には白川を流すように多くの小さな川が存在している。  
これらの川が流れている力を最大限に利用して新しい住まい(古く新しい住宅)を提案する。

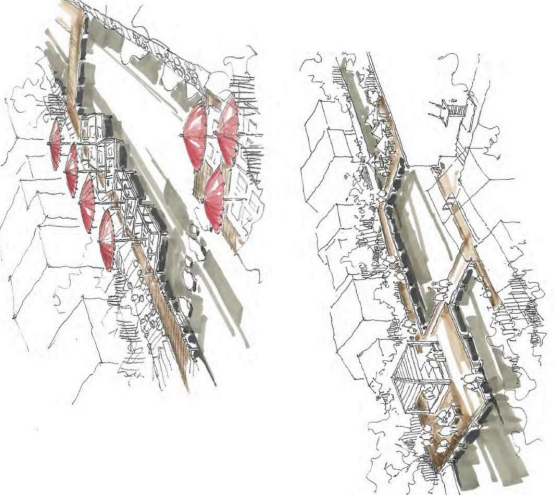
川面に立つと夏でも涼しさを感じる、涼感温度差は2〜3℃低いであろう。  
今回は川の流れを利用して提案であるが一方山の近くの涼気、土層の中あるいは森の下など、外気温が低く湿度が低い場所(クールスポット)は現代の都市の中でも多く存在するはずである。  
このような見逃していた力を親しんで新しい家づくりをしたらどうか。



上層の内部、廊下、竹林

## 2 敷地説明

敷地は京都でも歴史のある祇園白川が流れる商業と住宅が混在する地区を指定した。ビルとビル、住宅と住宅などの隙間空間といった、未利用の隙間敷地を今回の計画地として決定した。  
白川は、比叡山の湧き水が琵琶湖排水と合流して流れ込んだりたたく綺麗な川であり、夏でも枯れる事もなく、また水温も湧き水を流して高温とされている水温変化が少ない。今回はこの様な自然条件を最大限に利用しようと考えた。

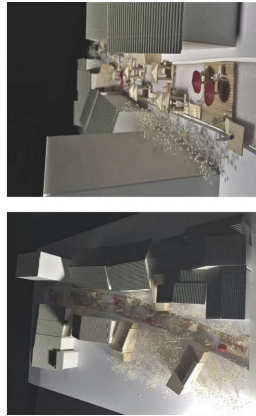


## 航空写真・配置図



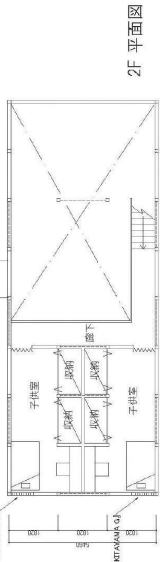
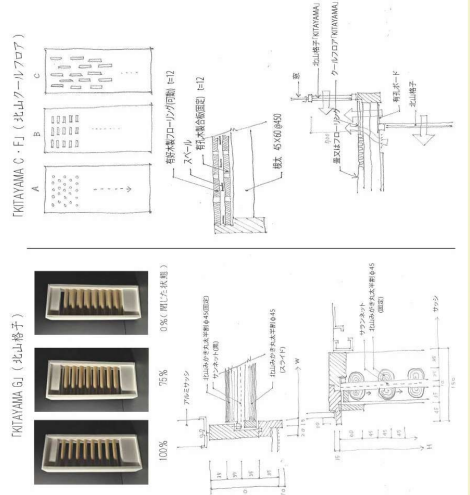
※特筆建築家が内部提案住宅、グレー部分がFootPass

※航空写真は Google Earthから

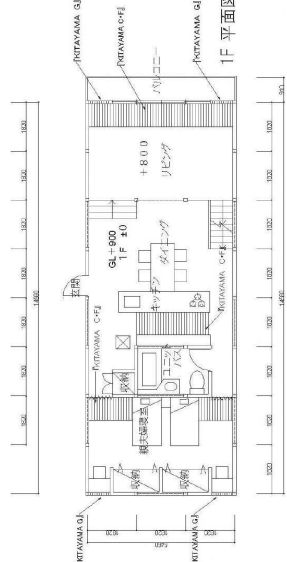


## 3 「フットパス」

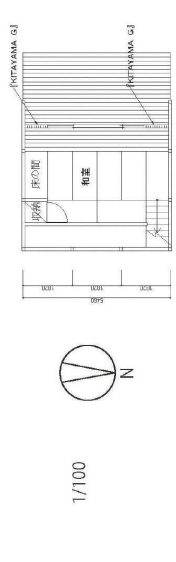
フットパスとはイギリスで発祥した「歩くことを楽しむための道」のことで農耕道を中心にイギリス国内を種目のように走っている公共の散歩道のこと。今回の提案は、白川という公共水面の上に北山太で舗装された公共歩道(FootPass)を設置し、市民が自由に散策し冷気を楽しむ空間を作った。  
また白川に面して計画した住宅はそこから冷気を十分に取り入れる工夫として北山太を渡ったKITAYAMA G1(北山格子)やKITAYAMA C-F1(北山コーブルフ)などの木材の新しい使い方を考えた。



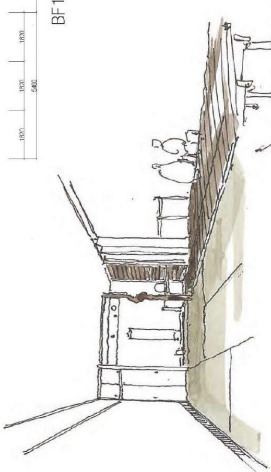
2F 平面図



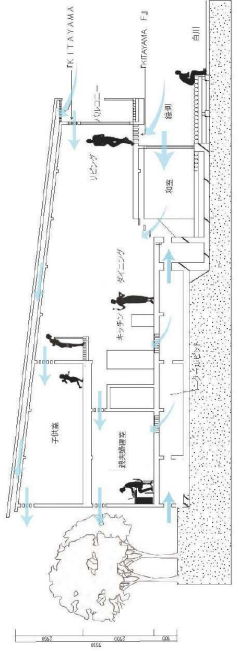
1F 平面図



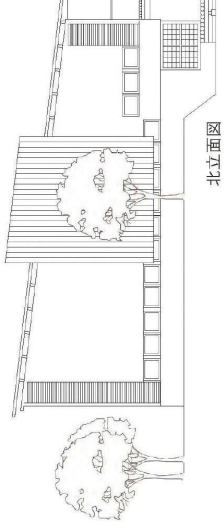
BF1 平面図



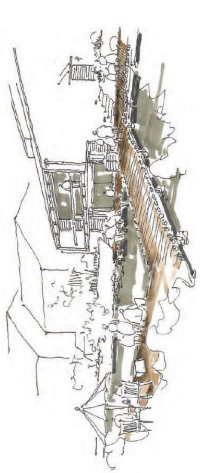
白川に面した和室、開口部をフルオープンにする、外部に内部が一本出し、外部ガラスは隠れかけ、涼気採集しやすくなる。



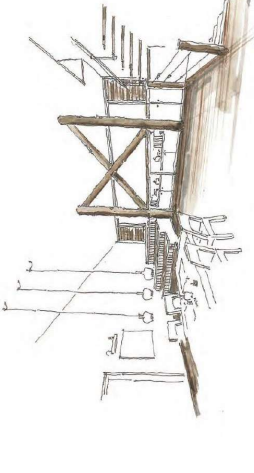
断面図



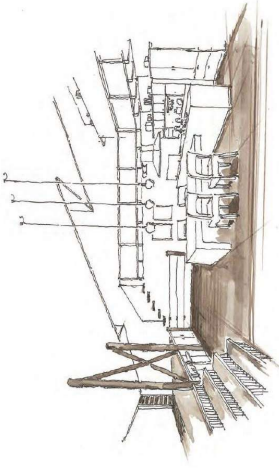
北立面図



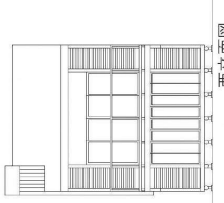
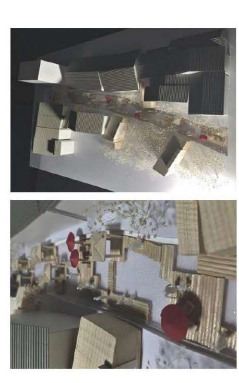
白川に面した、2階リビングのバルコニーからFootPassを眺める人の様子や、白川の流れを望むことができる。所々に設置されたデッキでは、カマドや、コンソールも置かれる。



リビングダイニングの風通、右手はBF1和室からの階段、西面ファードの山格子。階段上の半格子などから、白川の冷気が入ってくる。白い空間の中に、赤や白に山格子の構造材を配置した。



ダイニングから2階への廊下の流れをスムーズにするために冷気の空間とした。BF1和室から1Fリビング、そして2階の子供室へと風が通り抜ける。



西立面図